



令和2年は死亡数が出生数を約1万人上回り自然減少が拡大
 社会動態では、若い世代を中心に転出超過が続いている

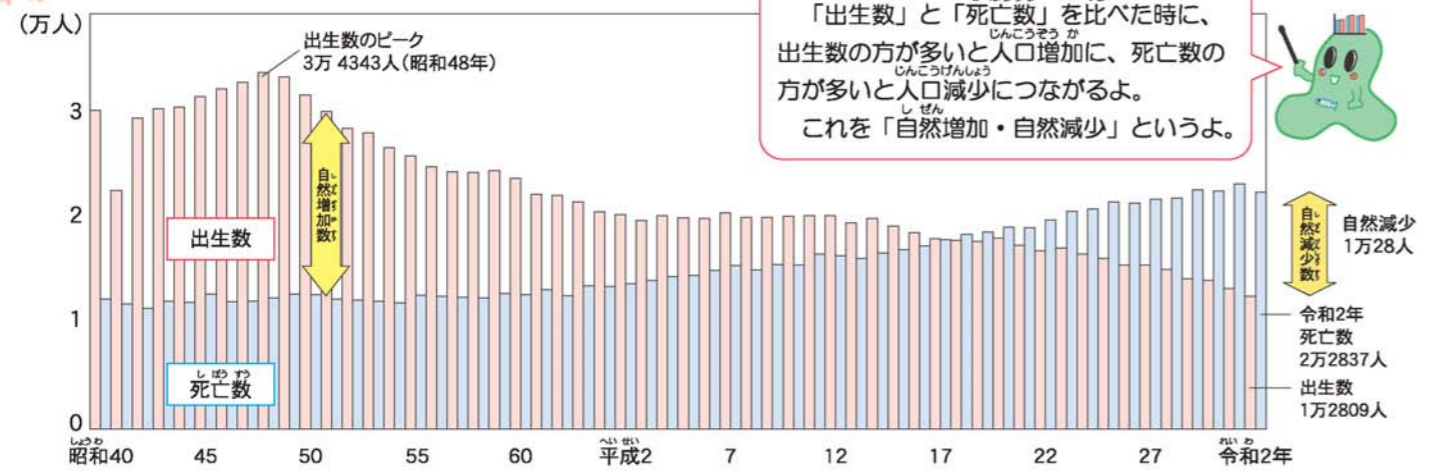
合計特殊出生率が回復傾向にあっても出生数が増加しないのは、母となる女性の減少のため。
 転入と転出の差を比べた社会動態をみると、若い世代で職業や学業による転出超過が続く。



1世帯当たり人員は2.65人で多い方から全国6位
 小家族化は進むが、3世代同居が多く1人暮らしが少ない

人口減少の一方で世帯数が増加し、1世帯当たり人員は減少しているが、全国の2.33人と比較すると多い方。共働き率や持ち家住宅率が高いことが特徴。

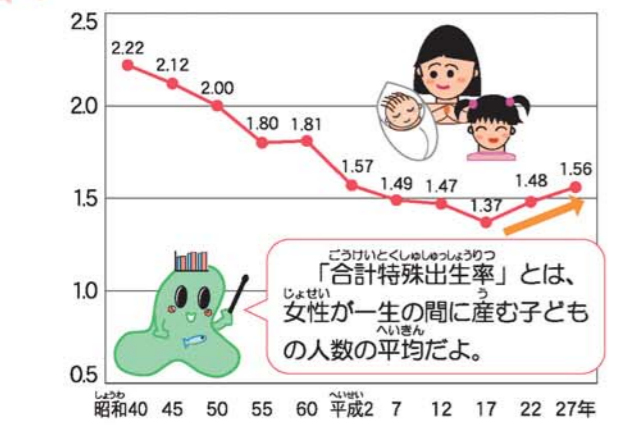
1 出生数と死亡数のうり変わり (岐阜県)



「出生数」と「死亡数」を比べた時に、出生数のほうが多いと人口増加に、死亡数のほうが多いと人口減少につながるよ。これを「自然増加・自然減少」というよ。

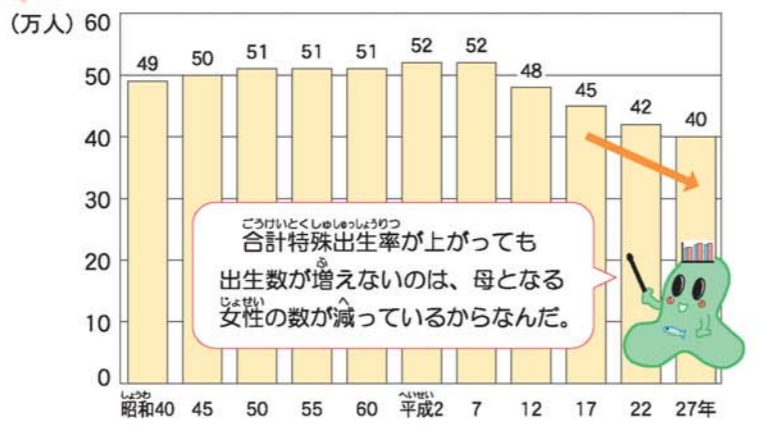


2 合計特殊出生率 (岐阜県)



「合計特殊出生率」とは、女性が一生の間に産む子どもの人数の平均だよ。

3 15~49才の女性の数 (岐阜県)



合計特殊出生率が上がっても出生数が増えないのは、母となる女性の数が減っているからなんだ。

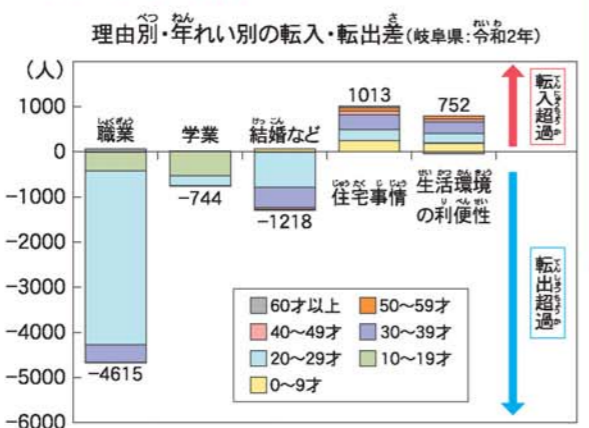


4 転出超過によって4761人の人口減少 (令和2年)

令和2年の転出超過は、4761人となった。

理由別にみると、20才代を中心とした若い世代で、「職業」「学業」「結婚など」を理由とした転出超過が目立つ。

一方、「住宅事情」や「生活環境の利便性」では、転入超過となった。

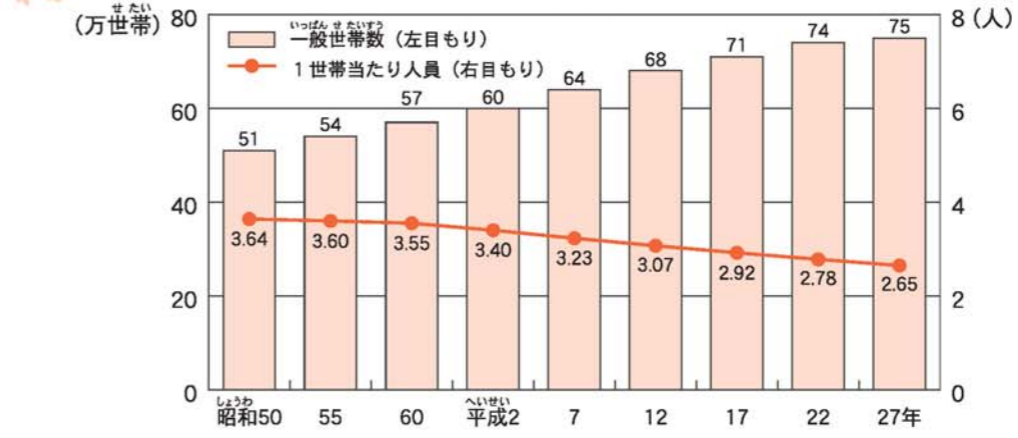


「転入数」と「転出数」を比べた時に、転入数のほうが多いことを「転入超過」、転出数のほうが多いことを「転出超過」というよ。

転出超過によって人口が減ることを「社会減少」というんだ。



1 岐阜県の世帯数と1世帯当たり人員



1世帯当たり人員とは、1世帯(1家族)の人数の平均で、家族の大きさを表しているよ。



2 1世帯当たり人員

全国平均 2.33人

1位	2.78人	山形
2位	2.75人	福井
3位	2.67人	佐賀
4位	2.66人	富山
5位	2.65人	新潟
6位	2.65人	岐阜
7位	2.59人	滋賀

3 1人暮らし世帯率

全国平均 34.6%

47位	25.5%	山形
46位	25.8%	奈良
45位	25.9%	岐阜
44位	26.3%	富山
43位	26.6%	福井
42位	26.9%	佐賀
41位	27.6%	新潟

4 共働き率

全国平均 24.5%

1位	36.1%	福井
2位	35.8%	山形
3位	34.4%	富山
4位	32.8%	新潟
5位	32.8%	長野
6位	32.6%	岐阜
7位	32.5%	鳥根

5 持ち家住宅率

全国平均 61.2%

1位	77.3%	秋田
2位	76.8%	富山
3位	74.9%	山形
4位	74.9%	福井
5位	74.3%	岐阜
6位	74.1%	奈良
7位	74.0%	新潟

6 1住宅当たり居住室の量

全国平均 32.7量

1位	45.9量	富山
2位	44.1量	秋田
3位	42.9量	福井
4位	42.8量	山形
5位	42.0量	岐阜
6位	41.8量	新潟
7位	40.9量	石川

7 1世帯当たり自動車保有台数

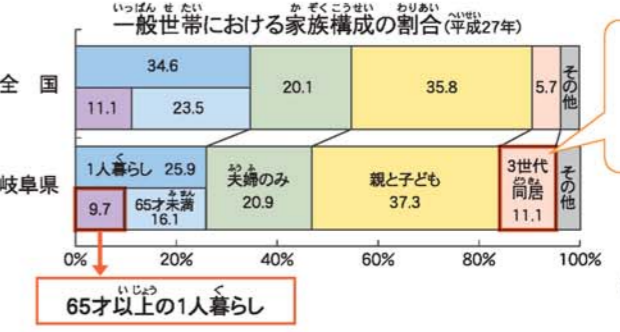
全国平均 1.04台

1位	1.73台	福井
2位	1.67台	富山
3位	1.66台	山形
4位	1.61台	群馬
5位	1.59台	栃木
6位	1.58台	茨城
7位	1.57台	長野
8位	1.56台	岐阜

8 65才以上の1人暮らしは、約10世帯に1世帯

全国と比較すると、岐阜県は1人暮らしが少なく、3世代同居が多い。

しかし、小家族化は年々進んでおり、平成12年には、20世帯に1世帯であった65才以上の1人暮らしが、15年後の平成27年には、10世帯に1世帯となった。



岐阜県の3世代同居率は、全国で11番目に高いよ。



(出典-人口の動き) グラフ1:「岐阜県人口動態統計調査」(各年の前年の10月1日から翌年の9月30日までの1年間の数) グラフ2:厚生労働省「人口動態統計」 グラフ3:総務省「国勢調査」(各年10月1日現在)
 (出典-世帯と暮らし) グラフ1:総務省「国勢調査」(各年10月1日現在) グラフ2-4:総務省「国勢調査」(平成27年10月1日現在) グラフ5、6:総務省「住宅・土地統計調査」(平成30年10月1日現在)
 グラフ7:一般財団法人 自動車検査登録情報協会「自家用乗用車の世帯普及台数」(令和2年3月末現在)